

1. 科目名 (単位 数)	産業・組織心理学 (2単位)	3. 科目番号	SPMP3331 PSMP3331						
2. 授業担当教員	平久江 薫								
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・ 他科目との関係	「社会心理学」の単位を修得した後に履修するのが望ましい。								
7. 講義概要	産業・組織心理学は、現場で働く人々のニーズに研究知見が直結する応用的分野である。これはすなわち、産業・組織心理学の研究知見が、組織を運営する人々や組織で働く人々、さらに社会人として大小の組織に加入することになる学生にとっても、現場の状況理解や問題解決につながる有用な知見が蓄積されているということである。本授業では、組織の中で、個人がどう知覚し、どのように行動し、態度を形成して、組織活動に参画していくのかについて理解する。さらにリーダーシップ行動や組織における意思決定や消費者行動について学ぶ。こうした産業の中で効率を上げるための心理学だけでなく、メンタルヘルスを向上させることで組織が活性化するという立場に立って、コミットメント、動機づけなどを含む職務満足、さらにはキャリア発達の視点とキャリアカウンセリングについて理解する。そして、学んだ産業・組織に関する知見に対して、どのような心理的援助ができるかについて考究する。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織活動や消費者行動と組織における人の行動について理解し、説明できる。 2. 組織の中で人の成長を促すもの、障害となるものについて理解し職場における問題に対して必要な心理的支援について考究できる。 3. 組織活動を通して、我々が成長し、幸せになるためには、どのような視点を持つことが必要なのかについて考究し、就職する組織についての基準を自分なりに創造することができる。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前、事後学習を必須とする。 2. 授業期間中に、事後学習の内容による小レポートを数回課すので、その提出が求められる。 								
10. 教科書・参考 書・ 教材	<p>【教科書】加藤容子・三宅美樹編『産業・組織心理学—個人と組織の心理学的支援のために』ミネルヴァ書房、2020</p> <p>【参考書】山口裕幸・金井篤子編『よくわかる産業・組織心理学』ミネルヴァ書房、2007</p>								
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 組織活動や消費者行動と組織における人の行動について理解し、説明できる。 2. 組織の中で人の成長を促すもの、障害となるものについて理解し、職場における問題に対して必要な心理的支援について考究できる。 3. 組織活動を通して、我々が成長し、幸せになるためには、どのような視点を持つことが必要なのかについて考究し、就職する組織についての基準を自分なりに創造することができたか。 <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業への積極的参加</td> <td>総合点の40%</td> </tr> <tr> <td>2. レポート</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3. 期末試験</td> <td>総合点の30%</td> </tr> </table>			1. 授業への積極的参加	総合点の40%	2. レポート	総合点の30%	3. 期末試験	総合点の30%
1. 授業への積極的参加	総合点の40%								
2. レポート	総合点の30%								
3. 期末試験	総合点の30%								
12. 受講生への メッセージ	人生の中で大きな比重を占める「働く」ということ。それが有償であれ無償であれ、個人、組織内であれ、自分らしく幸福に生きるための鍵になります。本講義では組織の中で働くことはどういうことかを踏まえ、そこにおける個人および組織を対象とした心理的支援について学びます。積極的な関心を持って授業に臨んで下さい。								
13. オフィスアワー	授業内で周知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	産業・組織心理学をとりまく現状	事前学習	将来、自身が組織で働くことを想定した時に、どのような場で働きたいか考えノートに記載する。						
		事後学習	組織観の歴史的流れについてノートにまとめる。						
第2回	第1章 組織とは—組織の運営・管理と組織—個人の心理学的アセスメント	事前学習	テキスト第1章に目を通し、分からない箇所を挙げておく。						
		事後学習	組織と個人がどのような影響を与え合っているかについてまとめてみる。						
第3回	第2章 組織における労働契約・法規	事前学習	テキスト第2章に目を通し、自身が関心を抱いた法についてピックアップしておく。						
		事後学習	法律の変遷について復習しまとめる。						
第4回	第3章 キャリア—働く人々を理解・支援するための理論と概念	事前学習	テキスト第3章に目を通しておく。身近な働く大人に、現在の役割や仕事に至るまでの経緯について尋ねてみる。						
		事後学習	今回学んだ中から一つ概念を取り上げ、自身のキャリアと照らし合わせて考えてみる。						
第5回	第4章 ワーク・モチベーションと組織コミットメント—個のパフォーマンスを支えるもの	事前学習	テキスト第4章を読んでおく。自身がこれまでに高いモチベーションで取り組めた体験を思い起こしておく。						
		事後学習	事前に検討した体験について授業内容を踏まえ改めて考察を加える。						
第6回	第5章 リーダーシップ—集団活動への効果的な影響力のために	事前学習	テキスト第5章に目を通しておく。また自身の理想とするリーダー像について考えてくる。						

		事後学習	授業で学んだことを踏まえ、リーダー像について再考しノートに記述する。
第7回	第6章 職場の人間関係—人と人をつなげて組織を支えるもの	事前学習	テキスト第6章に目を通しておく。過去に自身が所属した集団における生産性の上がった経験や良好な関係性について思い起こしてみる。
		事後学習	組織集団において自身が重視したいことについて改めて考えまとめてみる。
第8回	第7章 職業性ストレスとメンタルヘルス—働く人のストレスとの付き合い方を理解する	事前学習	テキスト第7章を読んでおく。自身のストレス対処方略について振り返ってみる。
		事後学習	職場でのストレス対処について改めて考えたことをノートにまとめる。
第9回	第8章 作業と安全衛生—生産活動にかかわる人を支える	事前学習	テキスト第8章を読み、用語の分からない言葉及び特に興味がひかれた言葉をノートに書き出してくる。
		事後学習	事前にチェックしたキーワードについて、ノートにまとめ直す。
第10回	消費者行動とマーケティング	事前学習	資料を読み用語のチェックをする。自身のこれまでの消費行動に当てはまる理論がないか検討し、ノートに記載する。
		事後学習	重要ワードをノートにまとめ直す。自身の経験についても振り返り、学んだことをふまえてまとめる。
第11回	第9章 産業・組織心理臨床の実際—「働くこと」を心理学的に支援するための活動	事前学習	職場に相談室があるとどのような点で役に立つと考えるか。また、どのような配慮が必要となるか。想像しノートに記載してみる。
		事後学習	産業分野での実際の心理学的支援について学んだことを自身でまとめてみる。
第12回	第10章 産業精神保健—産業・労働分野における公認心理師の立場とその役割	事前学習	テキスト第10章を読み、分からない言葉及び特に興味がひかれた言葉をノートに書き出してくる。
		事後学習	事前にチェックしたキーワードについて、ノートにまとめ直す。
第13回	第11章 ストレスチェック制度—メンタルヘルス不調の未然防止のために	事前学習	テキスト第11章を読み、分からない言葉及び特に興味がひかれた言葉をノートに書き出してくる。
		事後学習	職場での従業員のストレスをどのように捉え、どのように対応することが重要であるか授業内容をふまえて考える。
第14回	第12章 多様性に配慮した支援—あらゆる人がいきいきと働くために	事前学習	テキスト第12章に目を通す。組織において人知れず困っている人とはどのような人であるか想像してみる。
		事後学習	授業で学んだ内容を踏まえ、事前の問題をさらに考えてまとめる。
第15回	第13章 組織開発—学びと変容のプロセス	事前学習	テキスト第13章を読み、用語の分からない言葉及び特に興味がひかれた言葉をノートに書き出してくる。
		事後学習	事前にチェックしたキーワードについて、ノートにまとめ直す。